

[098]九大法学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/14734>

出版情報：九大法学. 98, 2009-02-26. 九大法学会
バージョン：
権利関係：

九大法学研究会（研究会開催順、敬称略）

二〇〇八年度第一回 二〇〇八年六月十六日～二十八日

イギリスにおける雇用の時間的断片化と労働法の適用の法状況

報告者 新屋敷恵美子（九州大学大学院法学府博士後期課程）

「司法への市民参加」にみる「公」と「私」の語り

—— 検察審査会を対象として ——

報告者 宇都義和（九州大学大学院法学府博士後期課程）

「損壊」概念について

報告者 福永俊輔（九州大学大学院法学府博士後期課程）

精神科医療、福祉政策の改革と医療観察法

報告者 内山真由美（九州大学大学院法学府博士後期課程）

自己信託及び目的信託に関する一考察

—— 将来顕在化しうる法の衝突についての示唆 ——

報告者 八並 廉（九州大学大学院法学府修士課程）

民事判例研究

報告者 菅尾 暁（九州大学大学院法学府博士後期課程）

計算錯誤について

—— ドイツ法を中心として ——

報告者 栗原秀朗（九州大学大学院法学府博士後期課程）

社会保障のリスク概念

報告者 細見佳子（九州大学大学院法学府博士後期課程）

アメリカにおける「共同使用者」(joint employer) 法理について

—— 多数当事者労働関係法理の展開 ——

報告者 鄒 庭雲（九州大学大学院法学府博士後期課程）

商事判例研究

報告者 原 弘明（九州大学大学院法学府博士後期課程）

グローバル循環型社会の形成をめぐる政治

——バーゼル条約へのドイツの対応を事例に——

報告者 渡邊智明（九州大学大学院法学研究院協力研究員）

株主代表訴訟制度の利用実態と濫用の可能性

——中国会社法と日本会社法との比較——

報告者 潘 秀麗（九州大学大学院法学府博士後期課程）

戦時刑事特別法における証拠法の問題

——課題としての福岡事件——

報告者 永住幸輝（九州大学大学院法学府博士後期課程・

東亜大学非常勤講師）

憲法における婚姻の自由と制度

——ドイツ連邦共和国基本法六条一項における議論
を手がかりとして——

報告者 阪口心志（九州大学大学院法学府博士後期課程）

国際裁判管轄と国際私法の交錯（二）

——特段の事情論における準拠法の考慮——

報告者 高畑洋文（九州大学大学院法学府博士後期課程）

ドイツにおける差別禁止規定と意見表明の自由

——ドイツ刑法一三〇条を中心に——

報告者 櫻庭 総（九州大学大学院法学府博士後期課程）

韓国の弁護士「論」と東アジアリーガルサービスの変容について

——弁護士論の日韓比較から——

報告者 久保山力也（九州大学大学院法学府博士後期課程）

二〇〇八年度第二回 二〇〇八年十一月四日～十一日

更生保護の最近の動き

報告者 内山真由美（九州大学大学院法学府博士後期課程）

カント法理論における人間の尊厳

報告者 城下健太郎（九州大学大学院法学府博士後期課程）

「環境と貿易」問題と国内政治

——バーゼル条約へのドイツの対応を事例に——

報告者 渡邊智明（九州大学大学院法学研究院協力研究員）

米英企業買収法制の分岐点

——ARMOUR = SKEL 稿を中心に——

報告者 原 弘明（九州大学大学院法学府博士後期課程）

「司法への市民参加」にみる市民の「変化」と「不変」

——検察審査員経験者への聞き取りを手がかりに——

報告者 宇都義和（九州大学大学院法学府博士後期課程）

公共空間における紛争管理の諸問題

——市民・当事者の「主体性」「コミットメント」と

いう観点から——

報告者 兼重賢太郎（九州大学大学院法学府博士後期課程）

国際裁判管轄における準拠法の考慮

報告者 高畑洋文（九州大学大学院法学府博士後期課程）